



老後をどこで過ごしますか？



	名称	内容	向いている人
	1 ご自宅	ずっと暮らしてきた家。	家族の協力が得られる人
公的な施設	2 特養	特別養護老人ホーム。要介護3以上の人が入居できる。費用は安価だがその分待機者も多い。	高額でない施設で最期まで見て欲しい人
	3 老健	介護老人保健施設。要介護1以上の人3ヶ月程度、在宅復帰を目指しリハビリを行う施設だが、現実には特養に入居できるまで老健で待つという人も多い。	病院からは退院しなくては行けないが、自宅へ戻るには不安がある、またはリハビリが必要な人
	4 ケアハウス	経費老人ホームの一環で、60歳以上で独立して生活するには不安がある人が対象で食事や日常生活のサポートを受けられる。利用料は前年度の所得に応じて自治体から補助されるので比較的安い費用で暮らすことが出来る。	掃除など身の回りのことは出来るが、自炊が出来ない、一人での入浴が不安な人や、一人暮らしは心細いが同居は困難な人
	4-1 ケアハウス自立型	身の回りのことが自分で出来る人	
	4-2 ケアハウス介護型	介護が必要な65歳以上の人	
民間の住まい	5 グループホーム	認知賞の人を対象とした住まい。少人数（5～9名をユニットとする）の家庭的で落ち着いた雰囲気の中で共同生活を送ることで、認知の進行を遅らせ、自立した生活が続けられるように支援する場所。特養入居待ちの方も多し。	認知症で、自宅暮らしは不安がある人や家庭的な雰囲気の中で暮らしたい人
	6 有料老人ホーム	入居時に一時金を支払い、終身にわたり施設利用と生活支援サービスを受けられる権利が保障される形態（住居・サービスが同一事業者）	
	6-1 介護型・介護付き	ホームが提供する介護サービスを24時間利用することが出来る。介護を受けるのが目的。	介護や見守りが必要なので、すぐに入居したい人
	6-2 入居時自立型・介護付き	まだ介護は不要で、身の回りのことが出来る人しか入居できない所もある。元気な間は居室で自分の好きな生活を送り、介護が必要になると、介護居室に移って介護を受けながら生活する。	将来介護が必要となったときの安心が欲しいが、元気なうちは自由に暮らしたい人や、今は元気だが食事の用意など家事の心配をしたくない人
	6-3 住居型	介護が必要となると入居者が外部事業所と契約し、訪問介護等のサービスを受けることになる。介護付きと住宅型の差はわかりにくい、住宅型だと、介護度が重くなるに従って料金が上がる。	
	6-4 健康型	介護が必要となったら退去しなければならない有料老人ホームだが現在は少ない。	
	7 サ高住	サービス付き高齢者向け住宅は、生活相談・緊急時対応・安否確認サービスが付いた賃貸住宅。介護サービスが付いているわけではなく、あくまで賃貸住宅。介護は必要となれば外部の事業所と契約して訪問介護やデイサービス等を利用する。	介護はまだ必要ではないが、これからのことが不安。出来るだけ安心して生活を送りたい人や集団生活はしたくないが、何かあったら対応して欲しい人
	8 シニア向け分譲マンション	サ高住は賃貸だが、こちらは分譲。所有権があるので相続させることが出来るが、固定資産税や管理費もかかる。共有部分は充実している事が多い。介護が必要になれば介護サービスを外部事業所から受ける。	介護はまだ不要だが、これから先を考えると不安、でも出来るだけ自由に暮らしたいという人や、子供に資産として残したい人